

Cisco Intersight Infrastructure Service

Contents

製品概要.....	3
Cisco Intersight Infrastructure Service の技術的特徴と利点.....	4
柔軟な導入オプション.....	6
Cisco Intersight Assist	7
モニタリングとキャパシティプランニング.....	7
強化された自動化とオーケストレーション.....	8
REST API	9
カスタマイズ可能なダッシュボードとモバイルアプリ	10
プロアクティブなサポート	10
ハードウェアのコンプライアンス.....	11
サポートされるソフトウェア.....	11
仮想アプライアンスのシステム要件.....	11
ライセンス	12
発注情報.....	13
Cisco Intersight Workload Optimizer によるアプリケーションリソース管理の簡素化	13
シスコの環境維持への取り組み	14
Cisco Capital	14
詳細情報.....	14
マニュアルの変更履歴.....	15

製品概要

Cisco Intersight® インフラストラクチャ サービスは、インフラストラクチャ ライフサイクル管理ソリューションであり、サービスとして提供されるか、接続またはプライベートの仮想アプライアンスとして提供されます。IT 運用チームは、どこにいても、コンピューティング、ストレージ、ネットワーク インフラストラクチャを 1 か所から確認、制御、自動化できます。Intersight Infrastructure Service は、ライフサイクル全体でグローバル インフラストラクチャを管理および自動化するための単一のダッシュボードを提供する Cisco Intersight IT 運用プラットフォームのコア モジュールです。Intersight Infrastructure Service は、Cisco Unified Computing System™ (Cisco UCS®) および Cisco コンバージドとハイパーコンバージドインフラストラクチャ、Cisco® ネットワーキング プラットフォーム、仮想化およびコンテナ プラットフォーム、サードパーティのサーバーとストレージ、およびその他の統合エンドポイントをサポートします。SaaS ソフトウェアであるため、Intersight Infrastructure Service の機能は毎週のリリースで増加および拡張されます。

Intersight Infrastructure Service を使用すると、データセンター、リモートサイト、ブランチオフィス、およびエッジ環境にまたがる分散型のインフラストラクチャとワークロードにおける SaaS 提供とライフサイクル管理のすべてのメリットを活用できます。これにより、以前は不可能だった方法で、クラウド運用モデルを通じて環境を展開、構成、保護、更新、保守、自動化、およびスケールリングすることができます。その結果、組織は一貫性と制御を維持して運用し、コンプライアンスを維持し、セキュリティ体制を強化して、IT インフラストラクチャ、リソース、およびアプリケーションをより迅速に提供してビジネスの成長をサポートすることができます。

シスコ インフラストラクチャの場合、Intersight Infrastructure Service は、Cisco UCS Manager、および Cisco Integrated Management Controller (IMC) と連動して動作します。さらに、Intersight Infrastructure Service は、サードパーティのストレージ、サーバー、仮想化、およびその他の SaaS サーバーと統合できます。モデルベースの設定を関連付けるだけで、フォームファクタに関係なく、サーバーおよび関連するストレージとファブリックを自動的にプロビジョニングできます。IT スタッフは、プロファイルを使用して、ポリシー、サーバーのパーソナリティ、およびワークロードを矛盾なく調整できます。これらのポリシーは一度作成すると、サーバーの導入を簡素化するために使用でき、生産性とコンプライアンスが改善され、一貫性のない構成による障害のリスクを低減できます。さらに、シスコでは、お客様が既存のソリューションをより効率的に使用できるよう、サードパーティ製運用ツール (ServiceNow など) との統合を提供します。

Intersight は私の大切な相棒です。世界中に分散しているインフラやワークロードを管理するのに Intersight は欠かせません。四六時中とまでは言いませんが毎日使用しています。ログやスプレッドシートはもう必要ありません。

Scott Adametz 氏

Riot Games のテクノロジー責任者

Cisco Intersight Infrastructure Service の技術的特徴と利点

表 1. 主な機能と利点

機能	利点
ユニファイドモニタリングと管理	<ul style="list-style-type: none"> シスコおよびサードパーティのコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、統合システム、仮想化、およびコンテナ リソースの監視と管理をすべて 1 つの IT 運用プラットフォームから簡素化します。 複雑さを増すことなくデータセンターおよびエッジ ロケーション全体のスケールが向上します。 Intersightで管理されているUCSドメイン内のコンポーネントと、それらの間の接続と関係を視覚的に表現することで、UCSドメインの接続の問題を特定します。 統合ダッシュボードを使用して、シスコおよびサードパーティのリソース全体を一目で把握できます。Intersightに接続された物理サーバーと仮想インターフェイスのリアルタイム データと選択された履歴データを使用して、問題の防止とトラブルシューティングを行います。 Cisco UCS Manager、Cisco IMC ソフトウェア、および Cisco UCS Director トンネリングを使用して、ローカル ネットワーク アクセスのないエレメントマネージャにアクセスできます。
設定、プロビジョニング、インストール	<ul style="list-style-type: none"> システムとサードパーティのリソースは、ダイナミックで効率的な IT キャパシティの使用に対して、アプリケーション ワークロードの間で割り当ておよび再割り当てできます。 構成リソースを共有し、複製する能力を含む展開と構成のためのポリシーベースのプロファイルとテンプレートにより、IT インフラストラクチャとリソースを一貫してプロビジョニングして運用し、標準化を維持し、構成エラーを排除し、構成のずれを最小限に抑えることができます。 ポリシーやテンプレートを利用したり、プロファイルを共有したり、複製したりすることで、展開場所に関係なく Cisco UCS サーバーを迅速にプロビジョニングできます。 管理対象の UCS サーバーに仮想メディア (vMedia) ベースのオペレーティングシステムをインストールします。
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティを最優先して構築 <ul style="list-style-type: none"> HTTPS、TLS、AES などの業界標準のセキュリティ プロトコルをサポートします。 すべてのデータの暗号化を含む、Cisco InfoSec セキュリティおよびデータ処理標準に準拠しています。[*] ISO 27001 認証：情報セキュリティ管理システムの規格。 SOC 2 Type 2 認証：機密性、セキュリティ、可用性などの管理を満たしています。 Cloud Security Alliance の信頼できるクラウド プロバイダーで、STAR レベル 1 のセキュリティ信頼保証を備えています。 ロールベース アクセス制御を提供して、ユーザー ロールと権限に基づいて、ユーザーへのシステム アクセスを承認または制限します。 SAML 2.0 を使用する外部 ID プロバイダーのサポートは、ユーザーを認証するために Cisco Intersight で構成できます。 管理ネットワークの分離: アプリケーション ワークロード データは Intersight に渡されないため、Intersight 接続が中断されても IT 運用ワークロードが中断されることはありません。 セキュリティを最優先して運用する <ul style="list-style-type: none"> シスコの製品セキュリティ インシデント レスポンス チームによって特定されたセキュリティ アドバイザリは、潜在的なリスクについて警告し、脅威の概要を提供し、環境内で影響を受けるデバイスを特定し、推奨される修復を提供します。 監査ログは、インフラストラクチャで実行されたすべてのアクションを記録し、タイム スタンプ、影響を受けるオブジェクト、イベント、ユーザーのログイン/ログアウトなどによってフィルタリングおよび/または検索して、SecOps の調査を容易にすることができます。 Intersight API を介して Splunk などのセキュリティ情報およびイベント管理 (SIEM) プラットフォームと統合します。 Cisco のハードウェア互換性リスト (HCL) に照らして環境内の潜在的なハードウェア互換性の問題を継続的に特定すると、潜在的なデバイスの不整合が警告され、修復するための推奨アクションが提供されます。 Webhook と統合して、インフラストラクチャの脅威または脆弱性が特定されたときに自動通知を有効にします。 インフラストラクチャとインフラストラクチャ サポートが最新であることを保証するために、サポート終了通知とデバイス サポート契約のステータスを提供します。

機能	利点
	<p>* Cisco Intersight プラットフォームでのデータ収集の詳細については、こちらの Cisco の Trust Portalにある Intersight プラットフォームによって提供されるクラウドサービスのプライバシー データ マップと、こちらの Intersight プライバシー データ シートを参照してください。</p> <p>注： Intersight のアウトオブバンド管理アーキテクチャにより、PCI DDS（カード所有者データを含む顧客トラフィックは Cisco Intersight プラットフォームを通過しない）や HIPAA（個別に識別可能な健全性がない）など、一部の標準および/または監査の対象外になります。ネットワーク上の情報は Cisco Intersight ポータルに送信されます）。ただし、Intersight のデータ センターは PCI/HIPAA に準拠しています。</p>
<p>自動化とワークフローのオーケストレーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドラッグアンドドロップ デザイナーを使用して、複数のインフラストラクチャドメイン、アプリケーション、および外部エンドポイントにわたって複雑なオーケストレーションを作成および実行します。 シスコおよびサードパーティのコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、統合システム、仮想化、コンテナ、および HashiCorp Terraform や Red Hat Ansible などの他の自動化エンジン全体の運用をサポートする、すぐに使用できる自動化タスクのライブラリから開始します。 カスタム タスク デザイナーを使用して、HTTP/API、Ansible、PowerShell、SSH などのオープン スタンドアードを使用して、自動化された操作の独自のライブラリを作成します。 VMware Cloud Foundation の ESXi クラスターの展開とカスタマイズされた ESXi のインストールを自動化する すぐに使用できるワークフローを使用するか、論理的なコントロールとループとともにタスクを組み立てて独自のワークフローを作成します。組み込みのデータ変換機能は、さまざまなドメインの自動化やタスクを通過するときに、情報の形式とフローを適合させるのに役立ちます。 ワークフロー デザイナーとカスタム タスク デザイナーの両方がドラッグアンドドロップ UI を提供し、ロー/コードのないユーザー エクスペリエンスでオーサリングを簡素化します。 インポートおよびエクスポート機能を使用して、作品を同僚やコミュニティと共有します。 ワークフローのすべてまたは一部をロールバックして、プロビジョニング解除を簡素化したり、特定の問題に対処したりできます。
<p>インベントリ情報、ステータス、キャパシティプランニング</p>	<ul style="list-style-type: none"> シスコおよびサードパーティのコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、統合システム、仮想化、およびコンテナのインベントリ情報を表示およびレポートします。 グローバル検索を使用して、名前、識別子、タグ、およびその他の情報に基づきシステムを迅速に特定します。 データ センターとリモート地域全体にわたって、Cisco UCS と Cisco HyperFlex サーバーのアラートや健全性ステータスを監視します Intersight に接続されたインフラストラクチャの履歴データをリアルタイムで参照して選択し、カスタマイズ可能なウィジェットで可視化して、問題を詳細にトラブルシューティングし、リソースを予測して予算を立てることができます。 Intersight に接続されたシステムと、FlexPod などのサポートされている統合インフラストラクチャ全体のファームウェアとプラットフォーム ソフトウェアのバージョンを追跡および管理します。 Cisco UCS Director ソフトウェアインストールのソフトウェアバージョンと自動パッチ更新を追跡および管理します。
<p>可視性と管理の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境全体の UCS サーバーの電力使用量とエネルギー消費をモニターおよび追跡します。 サーバーまたはシャーシ レベルで電源ポリシーを設定および適用して、ファン速度、BIOS 設定、および電源プロファイル設定を制御して、システムが意図した電力使用量で動作するようにします。 シャーシ内のサーバー全体にポリシーを設定して、ワークロードに優先順位を付け、電力需要が高い場合や利用できる電力が限られている場合に、シャーシ レベルの電力消費を制限します。
<p>サポートおよびエンドカスタマー エクスペリエンスの向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> サービス リクエストを提出し、返品許可 (RMA) をプロアクティブに承認します。 障害通知に関する一元化されたアラートを取得します。 Cisco Technical Assistance Center (TAC) に送信するテクニカルサポートファイルの作成、転送、分析を自動化して、トラブルシューティング プロセスを加速します。 管理対象システムのポートフォリオ全体における現在のサポート担当者ステータスを表示し、管理対象システムで期待されるサポートレベルが確保されるようにします。

機能	利点
REST API とサードパーティの統合	<ul style="list-style-type: none"> 複数のデータセンターとエッジロケーションにまたがる IT インフラストラクチャとリソースを管理するための RESTful API を提供します。 完全なプログラマビリティと緊密な統合を提供する、OpenAPI 標準 (OAS) をサポートします。 Python SDK や PowerShell SDK により、Ansible、Chef、Puppet、およびその他の DevOps および IT 運用管理 (ITOM) ツールとの統合が可能になります。 Hitachi、NetApp、および Pure Storage 用のストレージプラグインを使用して、ストレージ容量、コントローラ、構成、スナップショット、およびレプリケーションを確認します。ストレージ管理とオーケストレーションを自動化する。ストレージタスクライブラリを使用してワークフローを作成および実行します。 Dell PowerEdge と HPE ProLiant サーバーを接続して、インベントリと正常性を確認し、自動化されたワークフローに追加します。 vSphere から Intersight リソースを操作およびモニタリングします。 VMware Cloud Foundation の ESXi クラスターの展開とカスタマイズされた ESXi のインストールを自動化します。 Cisco Intersight の Service Graph Connector : Cisco Intersight から ServiceNow CMDB にデータを取り込むことができるため、ServiceNow IT 運用管理プラットフォームで Intersight に接続されたインベントリを確認し、問題をより迅速に解決できます。 Cisco Intersight : ServiceNow とのインシデント管理の統合 : Cisco Intersight からのアラームとアドバイザリに対して ServiceNow でインシデントを発生させることで、インシデントの生成を自動化します。
ハードウェア互換性リスト (HCL)	<ul style="list-style-type: none"> ファームウェア、サーバーモデル、プロセッサ、アダプタ、オペレーティングシステム、およびドライババージョンの検証されていない組み合わせを実行することでサービスに生じる問題の影響を評価し、軽減します。 VMware の Cisco UCS ツール アドオン、または OS 検出ツール (オープンソーススクリプト) を使用して、OS およびドライバ情報を収集し、HCL コンプライアンスを評価します。
シームレスな統合とアップグレード	<ul style="list-style-type: none"> UCS ドメイン、UCS サーバー、および UCS Director インスタンスのファームウェアとソフトウェアをアップグレードします。 Cisco Intersight Infrastructure Service のアップグレードは自動的に提供されます。従来の管理ツールのアップグレード用のリソースは不要で、運用の中断もありません。
モバイルアプリ (仮想アプライアンスまたはプライベート仮想アプライアンスでは使用不可)	<ul style="list-style-type: none"> Android および iOS デバイスで Cisco Intersight Infrastructure Service にアクセスし、ユーザーのアカウントで管理されているリソースへのモビリティに最適化された接続を提供します。 使用環境のステータスを最新の状態に保ち、IT 組織のメンバーと連絡を取り、外出先で重要な問題に対処できます。 Cisco TAC ケースを開きます。 多言語のサポートにアクセスできます。
トンネリング vKVM	<ul style="list-style-type: none"> Cisco UCS C シリーズ スタンドアロン サーバー用のトンネリング仮想キーボード、ビデオ、およびマウス (KVM) のセッションを開始する機能。

柔軟な導入オプション

Cisco Intersight Infrastructure Service は、高度な導入オプションによる柔軟性を備えた SaaS 管理プラットフォームです。シスコが提供する新機能は、利用可能になった時点で活用できます。管理ツールのメンテナンスに伴う課題や複雑さはありません。

大多数のユーザーは、米国東部とドイツの Intersight インスタンスから完全な SaaS 管理のメリットを享受しています。ユーザーは、Cisco インフラストラクチャを Intersight に直接接続し、Cisco Intersight Assist オンプレミスアプライアンスを介してサードパーティシステムに接続できます (詳細は以下を参照)。ただし、完全な SaaS モデルに対応していない可能性のあるシステムを管理するためのデータの局所性またはセキュリティのニーズがある場合は、オンプレミスの Cisco Intersight Connected Virtual Appliance を利用してそれらのシステムを接続できます。

また、Cisco Intersight プライベート仮想アプライアンスでは、オフプレミスで構成、導入、実行が可能な VMware オープン仮想アプライアンス (OVA) を簡単に導入できます。プライベート仮想アプライアンスを使用すると、

Intersight.com に接続しなくても、SaaS の機能の大部分を引き続き利用できます。Intersight 接続仮想アプライアンスとプライベート仮想アプライアンスの両方は、どちらも従来のオンプレミス管理ツールよりも優れています。

Cisco Intersight Assist

Cisco Intersight Assist を使用すると、Intersight に直接 SaaS 接続されていないサードパーティのインフラストラクチャ、プラットフォーム、およびその他のエンドポイントを要求できるため、それらを Intersight で管理できます。たとえば、Intersight Assist を使用して、VMware、NetApp、Pure、Hitachi、およびその他のオンプレミスのインフラストラクチャとプラットフォームを管理できます。Cisco Intersight Assist は、オンプレミスで実行される VM アプライアンスとして展開され、Cisco.com で入手可能な OVA を使用してインストールされます。Intersight Assist が Intersight 管理をオンプレミス、サードパーティのインフラストラクチャおよびプラットフォームに拡張する方法の詳細については、[ヘルプサイトにアクセス](#)してください。Cisco Intersight Assist のインストール方法については、こちらの[ビデオ](#)をご覧ください。

モニタリングとキャパシティプランニング

最新のアプリケーションで作成された複雑な環境とインフラストラクチャ エンドポイント数の劇的な増加をサポートするため、企業は運用管理ツールと緊密に統合された分析機能を必要としています。そのような分析機能を有効にするために、すべての Cisco UCS サーバー、または Cisco UCS Director インスタンスは、Cisco Intersight Infrastructure Service に自動的に接続して、特定のテレメトリ情報（シリアル番号と IP アドレス、エンドポイントにインストールされているソフトウェアのタイプ、および機能使用データを含む）をセキュア チャネルを介して送信するように設定されています。

ユーザーは、このデータを使用して、すぐに使用できるダッシュボードを使用して、ファブリック インターコネクと UCS サーバーのヘルス ステータスとパフォーマンスをモニターできます。トポロジ ビューを使用すると、Intersight で管理されている UCS ドメイン内のコンポーネントと、それら間の接続と関係を視覚的に表現することで、UCS ドメインの接続の問題を特定できます。リアルタイムおよび履歴のデバイス メトリックとテレメトリ データを参照して、問題を詳細にトラブルシューティングし、リソースを予測し、予算を割り当て、分散したデータに固有の相関関係を見つけることができます。たとえば、ハードウェア ステータス、サーバー ポート メトリック、およびネットワーク アップリンクをチェックして、サーバーとファブリック インターコネクとアップストリーム ネットワーク間の潜在的な問題を特定することで、UCS ドメイン ネットワークの問題をトラブルシューティングできます。または、定義された期間のファブリック インターコネク アップリンク ポートの全体的な平均使用率を表示して、キャパシティ プランニングを行うこともできます。その後、リンク容量を確認して、既存の UCS 環境にシャーシを追加できます。

さらに、ユーザーはフィルタとウィジェットのライブラリを使用して、カスタムの正常性ダッシュボードとパフォーマンス ダッシュボードを作成できます。

ユーザーは、サーバーの電力およびエネルギー消費をモニターおよび追跡することもできます。たとえば、個々のサーバーの電力消費量とグローバルなサーバー環境の全体的なエネルギー消費量を検索して表示することで、サーバーのエネルギー消費量を分析できます。フィルタを使用してデバイスごとにドリルダウンし、上位のエネルギー消費者などの詳細を確認できます。その後、CSV ファイルで、または Intersight API を使用して、レポート、プレゼンテーション、および分析用のデータをエクスポートできます。

強化された自動化とオーケストレーション

モデルベースの導入

Cisco Intersight Infrastructure Service は、シスコおよびサードパーティのコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、統合システム、仮想化、およびコンテナにモデルベースの展開を提供します。たとえば、**Cisco UCS C** シリーズ ラック サーバーは、迅速に設定するために既存のサーバー プロファイルを複製することにより、迅速かつ簡単に設定できます。モデルベースの導入は、リモートロケーションにある単一システムやデータセンターにある数百のシステムで機能し、迅速かつ標準化された構成と導入を可能にします。

自動化とワークフローのオーケストレーション

Intersight Infrastructure Service には、ドラッグ アンド ドロップの自動化およびワークフロー デザイナーが含まれており、**Intersight** が管理するシスコおよびサードパーティのコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、統合システム、仮想化、およびコンテナ全体で運用タスクの複雑なワークフローを作成および実行します。中央のワークフローエンジンは、ワークフローのステップを順序付けし、実行を自動化します。ワークフローは、インフラストラクチャまたはプラットフォーム要素に対する特定の操作（作成、読み取り、更新、削除など）を自動化するように設計された一連のタスクを実行します。ワークフローは、順次、繰り返し、並列、または条件付きで実行されるように配置された 1 つ以上のタスクで構成することも、自動化を整理または再利用するのに役立つサブワークフローを含めることもできます。ユーザーは、シスコおよびサードパーティのコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、統合システム、仮想化、およびコンテナ全体で一般的な操作を自動化する、事前に構築されたタスクのライブラリから選択できます。これらの事前構築されたライブラリ タスクは、タスクの構成とワークフローの作成を簡素化するために、**Intersight** 内で管理されるインフラストラクチャ モデル、インベントリ、および構成情報へのアクセスと事前に統合されています。たとえば、**VM** プロパティの構成を自動化するために、作成者は、事前統合されたタスクにより、作成者はユーザーがアクセスできる **VM** の既存のインベントリから操作する **VM** を作成者が選択できるようにします。事前統合されたモデリングにより、ワークフローの作成者は、追加の構成、ハイパーバイザーを操作する親サーバー、そのサーバーに接続されたネットワークなどのために、その **VM** の親ハイパーバイザー ホストに簡単にトラバースすることができます。事前統合された構成情報はまた、オーケストレーションの作成者がその他の基準により自動化を制御することも許可します。

事前統合された自動化タスク ライブラリに加えて、**HTTP** ベースの **API** 呼び出しの構築、**Ansible** プレイブック、**PowerShell**、または **SSH** の実行など、さまざまなオープン統合メソッドを使用して、タスク デザイナーで独自のカスタム タスクを作成できます。

一般的なオーケストレーション ユース ケースのさまざまなワークフローが含まれています。ワークフロー デザイナーを使用して、既存のワークフローを変更したり、独自のワークフローを作成したりすることもできます。ドラッグ アンド ドロップ デザイナーを使用すると、事前に統合されたタスク、カスタム タスク、サブワークフローを条件ステートメントとループとともに簡単に組み立てて、シスコおよびサードパーティのコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、統合システム、仮想化、およびコンテナ全体に必要なエンド ツー エンドのオーケストレーションを構築できます。自動化とワークフロー オーケストレーションの詳細については、[ヘルプ サイト](#)をご覧ください。

REST API

Cisco Intersight Infrastructure Service には、RESTful API を記述するための強力な定義形式である OpenAPI 仕様に基づいた API が含まれています。OpenAPI 仕様のサポートにより、ユーザーは [Intersight API ドキュメント](#) [英語]、API スキーマ、および SDK の生成を自動化するツールを使用して、相互運用可能な REST API にアクセスできます。Intersight API には、全機能の [Python SDK](#) や [PowerShell SDK](#) [英語] が含まれています。

この API は、Intersight エコシステムを進化させるためにシスコが確立した、より広範なオープン コネクタ フレームワークの不可欠な部分です。現在、Intersight インベントリを取り込んで表示し、ServiceNow IT 運用管理プラットフォームでそれらの関係を表示する ServiceNow プラグインをサポートしています。エコシステムは、シスコおよびサードパーティの幅広い DevOps ソフトウェアを最終的にサポートするように拡張されます。

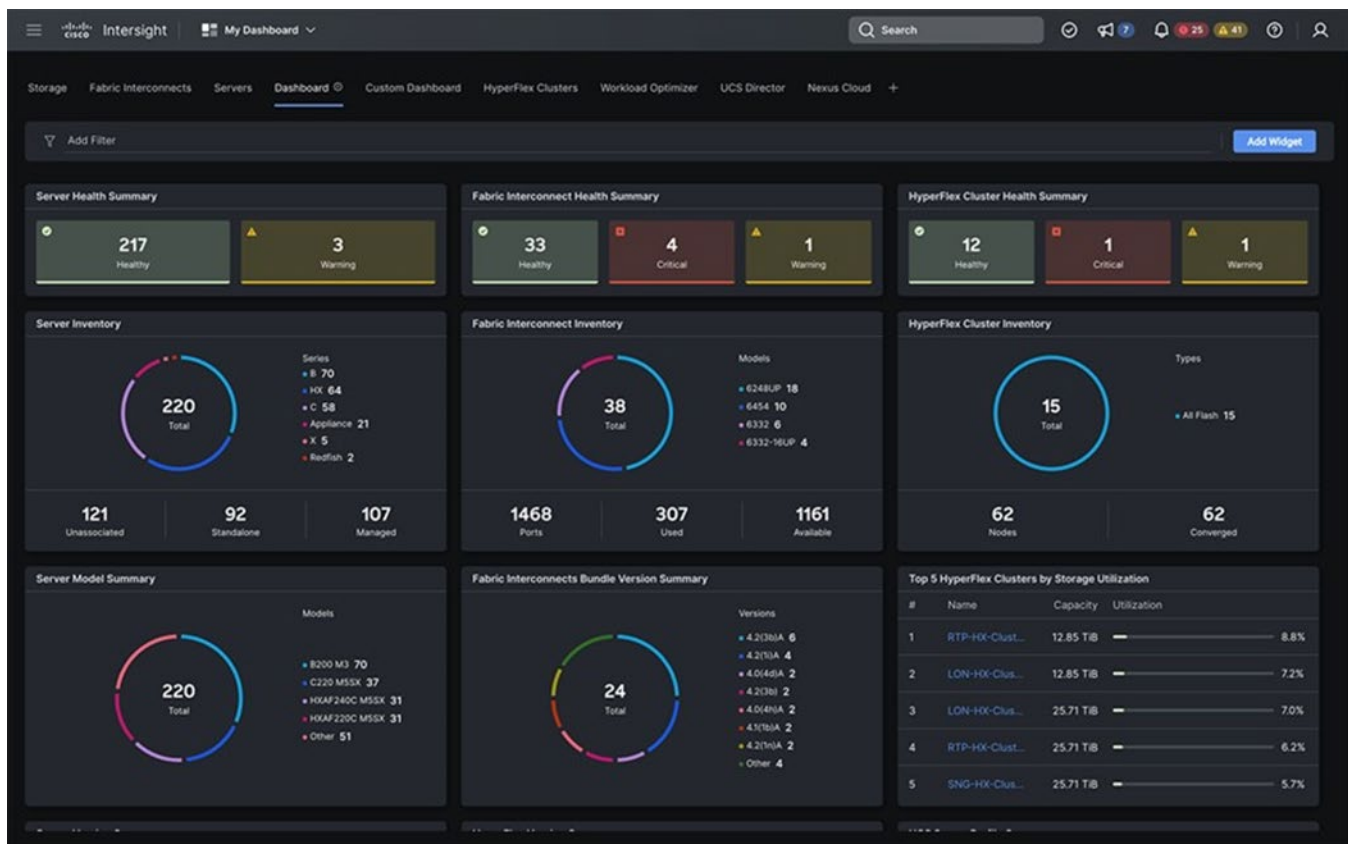


図 1. Cisco Intersight Infrastructure Service ダッシュボード

カスタマイズ可能なダッシュボードとモバイルアプリ

Cisco Intersight Infrastructure Service は、**Cisco UCS**、およびサードパーティのコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、統合システム、仮想化、およびコンテナにまたがるダッシュボード（図 1）を提供します。ダッシュボードは、ユーザーカスタマイズ可能で、自分のニーズに関する情報とタスクに焦点を当てることができます。ユーザーは、ダッシュボード上でウィジェットを追加、削除、または並べ替えることで複数のダッシュボードビューの作成、カスタマイズ、名前の変更、および管理ができます。**Intersight** では、ダッシュボードごとに最大 **30** のウィジェットを表示できます。このグローバルダッシュボードには、次のような機能が含まれています。

- **グローバルインベントリ**：サポートされているシステム全体のインベントリ情報を、データセンターにあるかリモートロケーションにあるかに関わらず取得します。
- **障害監視**：すべての管理システムにおける障害を管理し、警告を設定します。
- **ファームウェアのステータス**：ファームウェアのバージョンを監視および管理します。

Cisco Intersight Infrastructure Service では、単一の管理ツールからシステムを監視できます。ただし、特定のプラットフォームをより深く検討する場合は、**IIS** は以下を提供します。

- 仮想キーボード、ビデオ、マウス（**KVM**）セッションの相互起動機能。
- **Cisco UCS Manager**、**Cisco UCS Director**、および **Cisco IMC** ソフトウェアのトンネリング機能は、企業のネットワークの内外に関わらずマネージャにセキュリティで保護されたアクセスを許可します。

Cisco Intersight Infrastructure Service モバイルアプリでは、**Intersight** 接続システムの直感的なビューにより、外出先でも可視性を得られます。いつでもどこでもデータセンターとエッジ環境をタイミングよく監視できます。モバイルアプリは、インベントリ、タスク、およびアラートを監視するための **Apple** および **Android** アプリケーションです。また、**LED** ロケータをオンにする、シスコのサポートケースをオープンするなどのアクションも実行できます。

プロアクティブなサポート

Cisco Intersight インストールベースから収集されるテレメトリデータやインシデントは、セキュア通信メカニズムを使用して送信され、情報はインサイトとよりプロアクティブなサポートを提供するために **Cisco Technical Assistance Center (TAC)** で使用されます。**Cisco Smart Call Home** と組み合わせると、特定の障害に対して **TAC** ケースを自動的にオープンできます。**TAC** ケースのオープン方法には関係なく、システムが **Cisco Intersight** に接続されている場合、ログファイルはシステムから自動的に読み取られて **TAC** ケースに添付され、既知の問題について自動的に分析されます。特定のタイプのハードウェア障害では、返品許可（**RMA**）ケースが自動的にオープンされます。**Cisco Intersight** と **TAC** の統合により、ケース解決が迅速化され、**IT** 担当者に及ぼす影響が限定され、最終的にシステムの稼働時間が増加します。

Cisco Intersight Infrastructure Service を使用すると、シスコの製品に対してよりダイレクトなフィードバックの提供も可能になります。さらに、**TAC** との緊密な統合により、修正および今後の開発を迅速化するための継続的な配信が強化されることでソリューションの範囲が拡張されます。

ハードウェアのコンプライアンス

Cisco Intersight Infrastructure Service は、お客様のシステムが Cisco ハードウェア互換性リストに確実に準拠するよう、ハードウェアとファームウェアの互換性を評価します。このプロセスは、サポートされていない構成を識別し、知らないうちにサポートされていない構成を実行することで生じる可能性のある問題についてアラートを出します。

サポートされるソフトウェア

Cisco Intersight Infrastructure Service は、表 2 に記載されているソフトウェアバージョンの Cisco UCS と Cisco HyperFlex プラットフォームをサポートしています。

表 2. サポートされるソフトウェア

プラットフォーム	サポートされているバージョン
Cisco UCS Manager	リリース 3.2(1) 以降
Cisco IMC ソフトウェア	リリース 3.0(4) 以降
Cisco HyperFlex	リリース 2.5.1 以降
Cisco UCS Director	リリース 6.6 以降
Pure Storage FlashArray	Purity バージョン 4.8 (API バージョン 1.7) 以降
VMware vCenter	6.7、7.0、8.0 以降

サポートされているバージョンと注意事項の詳細なリストについては、[製品マニュアル \[英語\]](#) を参照してください。

仮想アプライアンスのシステム要件

Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよびプライベート仮想アプライアンス OVA は、VMware ESXi 6.0 以降に導入できます。表 3 に、最小システム要件を示します。詳細については、[スタートアップガイド \[英語\]](#) を参照してください。

表 3. 最小システム要件

項目	要件
サポートされるハイパーバイザ	VMware ESXi 7.0 以降
ストレージ	500 GB
RAM	32 GB
vCPU の数	16

詳細およびサイジングのガイドラインについては、製品マニュアルを参照してください。

ライセンス

Cisco Intersight Infrastructure Service は、複数のライセンス エディションから選択できるサブスクリプション ベースでライセンスされます。キャパシティはライセンス階層により機能が増えます。お客様は、1 年間、3 年間、または 5 年間のサブスクリプションを購入し、選択したサブスクリプション期間に合わせて Cisco UCS サーバーポリュームを選択できます。

M7 サーバー世代以降、Intersight Essentials 以上のライセンスが必要です。すべての M7 サーバーにはライセンスがバンドルされています。

以前のサーバー世代では、Intersight ライセンスを強くお勧めしますが、必須ではありません。

お客様は、Cisco Ordering ツールを使用してサーバを購入するときに、Essentials 以上のライセンスを購入できます。PID の注文については、表 4 を参照してください。

表 4. Cisco Intersight Infrastructure Service 階層

ライセンス階層	説明
Essentials	<p>次のようなサーバー ライフサイクル管理の機能が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none">• ユーザーおよび SDK/API アクセス、許可、ライセンス、および監査に関するプラットフォーム レベルの設定。ヘルス モニタリング、タグ付けと検索、基本的なデータ インベントリ、および多要素認証のサポート。• Cisco UCS の基本インベントリ、ファームウェア、およびダッシュボード管理をサポート。• Cisco UCS、コンバージド、およびハイパーコンバージド インフラストラクチャのサーバー プロファイルを使用したポリシー ベースの構成によるコンピューティング インフラストラクチャ管理の簡素化。• テレメトリ情報のモニタリングと追跡 (10 分ごとと 90 日ごとの履歴データのデータ収集)• Metrics Explorer によるカスタム探索• サーバー、BIOS、および OS の電源ポリシー管理、および動的な電源再調整。• Redfish API を介して、Dell PowerEdge および HPE ProLiant サーバーまたは他のサードパーティサーバーに接続する機能。• サポートされているセキュリティ アドバイザリと Field Notice の影響を受けるエンドポイント デバイスに関するアラートと、推奨される修復の受信。• ハードウェア互換性アラート、プロアクティブな RMA、および Cisco Intersight のログ ファイルの自動収集とアップロードによるトラブルシューティングの加速 - Cisco Technical Assistance Center (TAC) を通じて接続されたデバイス。 <p>注： 詳細な機能リストはこちら：Intersight.com のライセンス ページ。</p>
Advantage	<p>Essentials のすべての機能に加えて、自動化、オーケストレーション、および高度なサーバー管理の機能を提供します。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ドラッグ アンド ドロップ デザイナーを使用して複雑なワークフローを作成して実行するか、Cisco Intersight API および SDK を使用して、Ansible、Terraform、またはその他のツールから既存の自動化を組み込みます。• 仮想化インフラストラクチャの可視性と複数のクラウドにわたる運用の正規化により、クラウドエクスペリエンスを簡素化します。• テレメトリ情報のモニタリングと追跡 (1 分ごとのデータ収集と 2 年間の履歴データ)• サーバ、SAN スイッチング、ストレージ、VMware 仮想化、Cisco ファブリック インターコネク トなどの FlexPod コンバージド インフラストラクチャ インベントリ。• Cisco Intersight からデータを取り込むことにより、問題を素早く解決：ServiceNow ストアで入手可能な Service Graph Connector for Cisco Intersight プラグインを使用して、Cisco Intersight に接続されたサーバー、ストレージ、データセンター ネットワーキング、仮想マシンを ServiceNow IT 運用管理プラットフォームに取り込むことで、また Cisco Intersight Incident Management Integration プラグインを使用して、Cisco Intersight からのアラームとアドバイザリに対して ServiceNow でインシデントを生成することで、問題をより迅速に解決します。

ライセンス階層	説明
	注： 詳細な機能リストはこちら： Intersight.com のライセンス ページ。

発注情報

Cisco Intersight Infrastructure Service サブスクリプションは、1 年間、3 年間、および 5 年間のサブスクリプション期間中に注文できます。さらに、200 以上のデバイス（サーバー）サブスクリプションを同時に注文するお客様にはボリューム割引が提供されています。表 5 に、Intersight.com の SaaS バージョンと仮想アプライアンスの各ライセンスオプションの詳細を示します。

Cisco Intersight には、Cisco スマートアカウントとスマートライセンスが必須です。さらに、Cisco Intersight ユーザーインターフェイスを使用するには、Cisco Connection Online (CCO) ユーザーアカウントが必要です。

注： Cisco Intersight Infrastructure Service SaaS ライセンスにより、お客様は SaaS または CVA（接続された仮想アプライアンス）の展開オプションを選択できます。CVA の詳細については、「柔軟な展開オプション」セクションを参照してください。

表 5. 発注情報

製品番号	説明
DC-MGT-SAAS	製品ファミリー : Cisco Intersight
DC-MGT-IS-SAAS-ES	Cisco Intersight Infrastructure Service SaaS - Essentials
DC-MGT-IS-SAAS-AD	Cisco Intersight Infrastructure Services SaaS - Advantage
DC-MGT-IS-PVAPP-ES	Cisco Intersight Infrastructure Services プライベート仮想アプライアンス - Essentials
DC-MGT-IS-PVAPP-AD	Cisco Intersight Infrastructure Services プライベート仮想アプライアンス - Advantage

Cisco Intersight Workload Optimizer によるアプリケーションリソース管理の簡素化

Cisco Intersight Workload Optimizer (IWO) は、Cisco Intersight Infrastructure Service の有無にかかわらず購入できるオプションサービスです。IWO はリアルタイムの意思決定エンジンであり、パブリック クラウドのコストを削減しながら、オンプレミスとパブリッククラウド環境全体でアプリケーションの正常性を確保します。インテリジェント ソフトウェアは、ワークロードの需要、リソース消費、パブリック クラウドのリソース コスト、およびポリシーの制約を継続的に分析し、最適なバランスを決定します。IWO は、データセンターとパブリック クラウドのシステムによるワークロード配置とリソース割り当てを推奨し、多くの場合、リアルタイムの最適化を完全に自動化します。

このソフトウェアは、パブリック クラウドリソースの柔軟性を活用し、オンプレミスのリソースを完全に活用することで、ワークロードをいつ、どこで、どのように移動およびサイズ変更するかを決定できます。Intersight Workload Optimizer は、履歴データを追跡することで、キャパシティプランニングと移行のシナリオを効果的にモデル化し、必要なインフラストラクチャの量と必要な時期を判断し、リスクを軽減し、予測可能なパフォーマンスとコストを確保できます。

シスコの環境維持への取り組み

Cisco の製品、ソリューション、運用および拡張運用またはサプライチェーンに対する環境持続可能性ポリシーと取り組みに関する情報は、シスコの[企業の社会的責任 \(CSR\)](#) レポートの「環境持続可能性」項を参照してください。

表 6 に、環境の持続可能性に関する主要なトピック（CSR レポートの「環境の持続性」セクションに記載）への参照リンクを示します。

持続性に関するトピック	参照先
製品の材料に関する法律および規制に関する情報	材料
製品、バッテリー、パッケージを含む電子廃棄物法規制に関する情報	WEEE 適合性

シスコでは、パッケージデータを情報共有目的でのみ提供しています。これらの情報は最新の法規制を反映していない可能性があります。シスコは、情報が完全、正確、または最新であることを表明、保証、または確約しません。これらの情報は予告なしに変更されることがあります。

Cisco Capital

目的達成に役立つ柔軟な支払いソリューション

Cisco Capital® ファイナンスでは、お客様が目標の達成、ビジネス変革の実現、競争力の維持に合ったテクノロジーを簡単に導入できるよう支援します。総所有コスト (TCO) の削減、資金の節約、成長の促進に役立ちます。シスコの柔軟な支払いソリューションは 100 か国以上で利用可能であり、ハードウェア、ソフトウェア、サービス、およびサードパーティ製の補完的な機器を、利用しやすい計画的な支払方法で購入できます。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

詳細情報

詳細については、Cisco Intersight (cisco.com/go/intersight) を参照してください。

マニュアルの変更履歴

新規トピックまたは改訂されたトピック	説明箇所	日付
セキュリティ機能の追加	ページ 4、機能と利点	2023 年 2 月 27 日
電源管理の追加	ページ 4、機能と利点	2023 年 2 月 27 日
ドイツの Intersight インスタンスを追加	ページ 6、柔軟な展開オプション	2023 年 2 月 27 日
Cisco Intersight Cloud Orchestrator が「自動化とワークフロー オーケストレーション」に変更	ページ 8、自動化とワークフローのオーケストレーションが強化	2023 年 2 月 27 日
6.0 、 6.5 が削除されました。 7.0 、 8.0 が追加されました	11 ページ、VMware vCenter バージョンがサポートされました	2023 年 2 月 27 日
6.0 が削除されました。 7.0 が追加されました	11 ページ、VMware ESXi の要件	2023 年 2 月 27 日
更新されたライセンス要件	12 ページ、ライセンス	2023 年 2 月 27 日
Essentials と Advantage 、および対応する機能を反映するようにライセンス階層表を更新しました	12 ~ 13 ページ、ライセンス階層表	2023 年 2 月 27 日
注文情報と注文情報表を更新しました	ページ 13、注文情報	2023 年 2 月 27 日
指定されたリアルタイムおよび履歴データ	2 ページ、ユニファイド モニタリングと管理	2023 年 8 月 21 日
グローバルな UCS サーバーの電力消費とエネルギー使用量の可視性の追加	3 ページ、電源の可視性と管理	2023 年 8 月 21 日
リアルタイムおよび履歴データを使用したトラブルシューティングおよびプランニング機能の追加	3 ページ、インベントリ情報、ステータス、キャパシティ プランニング	2023 年 8 月 21 日
モニタリングとキャパシティ プランニングの説明を更新	5 ページ、モニタリングとキャパシティ プランニング	2023 年 8 月 21 日
表 1 を更新	4 ページ、ユニファイド モニタリングと管理	2023 年 10 月 13 日
表 1 を更新	4 ページ、構成、プロビジョニング、インストールの説明	2023 年 10 月 13 日
Cisco ハイパーコンバージドインフラストラクチャの更新	ドキュメント全体	2023 年 10 月 13 日

新規トピックまたは改訂されたトピック	説明箇所	日付
更新済み機能	3 ページ、ユニファイド モニタリングと管理 5 ページ、自動化とワークフローのオーケストレーション 6 ページ、REST API	2023 年 12 月 18 日
表 4	13 ページ、Essentials 13 ページ、Advantage	2023 年 12 月 18 日

米国本社
Cisco Systems, Inc.
カリフォルニア州サンノゼ

アジア太平洋本社
Cisco Systems (USA), Pte. Ltd.
シンガポール

ヨーロッパ本社
Cisco Systems International BV
Amsterdam, The Netherlands

2023 年 11 月発行

© 2023 Cisco and/or its affiliates. All rights reserved.

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/go/ciscoltradenmarks をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」または「partner」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。1175152207 10/23

